

災害のお見舞いとお願い

豪雨による災害が各地で起こっています。被害に遭われた先生方に心よりお見舞い申し上げます。

保険医協会では会員医療機関の被災状況の把握につとめておりますが、被災にあわれた先生がおられましたら協会へご一報下さい。

お問合せは支部担当事務局・小西、岡本まで(TEL 078-393-1807)

兵庫県保険医協会姫路・西播支部役員

(2009年8月現在・地区別・五十音順・敬称略)

■協会役員 (2009年6月～2011年5月)

- <理事長> 1人 池内 春樹 (姫路市)
- <理事> 5人 石橋 悦次 (姫路市) 正木 茂博 (神崎郡)
宗実 琴子 (姫路市) 清水 映二 (たつの市)
高森 信岳 (たつの市)
- <参与> 1人 杉本 敏夫 (相生市)
- <評議員> 7人 綱島 武彦 (姫路市) 河原 幸義 (相生市)
野中 仁作 (姫路市) 京 寿学 (相生市)
古谷 素敏 (姫路市) 宇野 千里 (たつの市)
宮本美智子 (佐用郡)
- <予備評議員> 4人 久保精一郎 (姫路市) 澤田 周 (赤穂市)
上田 久志 (揖保郡) 山中 陽一 (宍粟市)
- <歯科評議員> 2人 津田 賢治 (姫路市) 山田 豊和 (姫路市)

■支部役員 (2008年7月～2010年6月)

- <支部長> 1人 宗実 琴子 (姫路市)
- <副支部長> 4人 池内 春樹 (姫路市) 正木 茂博 (神崎郡)
湯之上 茂 (姫路市) 河原 幸義 (相生市)
- <幹事> 14人 石橋 悦次 (姫路市) 清水 映二 (たつの市)
津田 賢治 (姫路市) 高森 信岳 (たつの市)
綱島 武彦 (姫路市) 京 寿学 (相生市)
西川 義規 (姫路市) 長濱 通正 (相生市)
野中 仁作 (姫路市) 宮崎医津博 (赤穂市)
古谷 素敏 (姫路市) 宮本美智子 (佐用郡)
宇野 千里 (たつの市) 山中 陽一 (宍粟市)
- <顧問> 2人 室井 凱雄 (たつの市) 杉本 敏夫 (相生市)

兵庫県保険医協会 姫路・西播支部ニュース

No.154 2009年8月25日発行



発行 兵庫県保険医協会姫路・西播支部 支部長 宗実琴子
連絡先 〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5F
兵庫県保険医協会 TEL/078-393-1807 FAX/078-393-1802

第24回支部総会・記念企画「医療安全管理研修会」を開催

新型インフルみすえ感染予防訴え



医療安全管理研修会には81人が参加した

姫路・西播支部は7月18日、第24回支部総会、記念企画「医療安全管理研修会」を開催し、全体で81人が参加。08年度活動のまとめと09年度活動方針が採択された。

総会記念企画では、姫路赤十字病院血液・腫瘍内科部長の平松靖史先生、看護師長の植田多恵子氏が、それぞれ「外来部門における院内感染対策」、「外来部門における医療安全管理」というテーマで講演した。

(2面に続く)



会場からの質問に回答する
平松先生(左)と植田氏(右)

(1面から続く)

植田氏は、姫路赤十字病院で実際に起こった間違い事例を紹介しながら、医療安全推進室の取り組みを説明。「医療は取り扱う情報が多様だが、情報そのものが不確実であるため、コミュニケーションが不十分であると事故を起こしてしまう」と強調した。

平松先生は、状況にあわせた手洗いの仕方、マスクの使い分け、手袋の使用方法など具体的な感染予防対策について説明した。また、

新型インフルエンザ患者を受け入れた経験を紹介し「現在は弱毒性だが甘く見てはいけない。重症化しそうな人を救えるよう備えが必要」と訴えた。

会場からは「医院に入り口が1つしかないのだが、新型インフルエンザの際どう対応すればいいか」「患者の呼び間違いを防ぐには何に気をつければよいか」など質問が出され、講師が適切に回答した。

(下に09年度活動方針、4面に役員体制を掲載)



実例に真剣にメモをとる参加者

2009年度支部活動方針

(2009年7月～2010年6月)

引き続き会員のニーズに応じた研究会活動など支部の活性化をはかるとともに、「医療改悪」を許さない活動を重点にしつつ、以下の活動をすすめる。

- 1、第24回支部総会は、記念企画として「医療安全管理研修会」を行う。
- 2、研究会や審査・指導問題、医院経営など会員のニーズに応じた企画を開催する。
- 3、新規開業未入会員への働きかけをすすめる。また、新規開業医懇談会を開催し、支部活動への若手会員の参加を広げる。
- 4、他職種との交流も兼ねた在宅医療研究会等を開催する。
- 5、好評を得ている職員接遇講座や医療安全管理研修会など、スタッフ向けの研修会を引き続き開催する。
- 6、バスツアーなど文化企画の取り組みをすすめる。
- 7、西播社保協の医療・福祉改善活動や要請行動、講演会活動などに積極的に協力する。
- 8、姫路障害者連絡協議会の障害者の権利を守る運動に協力する。
- 9、医療をはじめ社会保障の拡充を求めて、自治体へ働きかけるなど改善運動をすすめる。
- 10、幹事会運営を充実させ、若手幹事の登用をはかる。
- 11、支部ニュースの定期発行に努める。

西播社保協・第19回総会

社会保障改善目指し新たな出発

西播社会保障推進協議会(西播社保協)は7月11日、第19回定期総会を開催し、50人が参加した。会長の宗実琴子支部長がメッセージを寄せ「地域から、草の根からさらに運動を強め、これを押し切り改善させる必要があります」として、参加者に西播社保協再建のための協力をよびかけた。

新たに幹事に選出された高森信岳支部幹事の報告と感想を掲載する。

7月11日(土)に西播社会保障推進協議会第19回定期総会が姫路市自治福祉会館大ホールで開催された。前回総会が開かれてから、3年間定期総会は諸事情のため開催されなかった。事務局の移転等で体制が整ったので新体制で活動を再開された。

当面の課題は、高すぎる国保の負担金対策、問題の多い後期高齢者医療制度の廃止、介護保険制度の実態を把握する等、多くの方が肌身で感じていることである。

記念講演会は、「国保改善と社保協の役割」というテーマで津市立三重短期大学准教授の長友薫輝(ながともまさてる)先生が講演された。講演の内容も国保問題と連動していた。

印象に残った点として、「社会保障は支払い能力に関係なく必要なものである」、「国保加入者の特徴として自営業者15%、無業者54% 給与所得者24%であり、国保は他の公的医療保険に加入する以外のすべてが加入する構造になっているので保険原理は保険を収めることができなければ保険からは排除されること」である。これらの解決策として、「現行の国保法に基づいた政策的対応」「助け合いの強調は不要である」点を強調されていた。

印象に残った言葉として、「経済が医療を決めるのではなく、医療が経済を決める」、社会保障が充実していないと安心して働きません」ということである。社保協の活動の秘訣として「無理せず、あせらず、あきらめず」と言われていた。

全体の感想として、今回の総会、講演会に参加して多くの方が国保の問題、社会保障に関心をもたれていることを実感した。社保協の活動は、「無理せず、あせらず、あきらめず」を実践することにより多くの方の役にたてる。

国は「生活習慣病対策は医療費抑制に有効」と言うが、健康に関心が高くなると結果として長生きされることになり、総医療費はむしろ増加すると言われていた。言葉尻にごまかされないことが重要である。

【たつの市 高森 信岳】



50人が集まり、再出発を確認した